
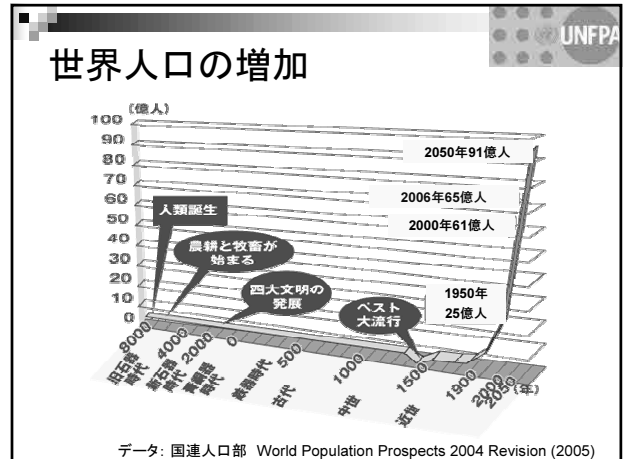



開発途上国と日本の高齡化

JICA調査研究報告書発刊記念公開セミナー
2006年7月26日
国連人口基金 東京事務所
所長 池上 清子

世界人口

- 世界全体では人口が増加 (7600万人/年)
- そのうちの96%は発展途上国で起きている
- 現在、世界人口65億人のうち約半数は25歳未満
- しかし、2050年には現在「開発途上国」と呼ばれている国のすべてが高齡化社会となる



インドの人口推移

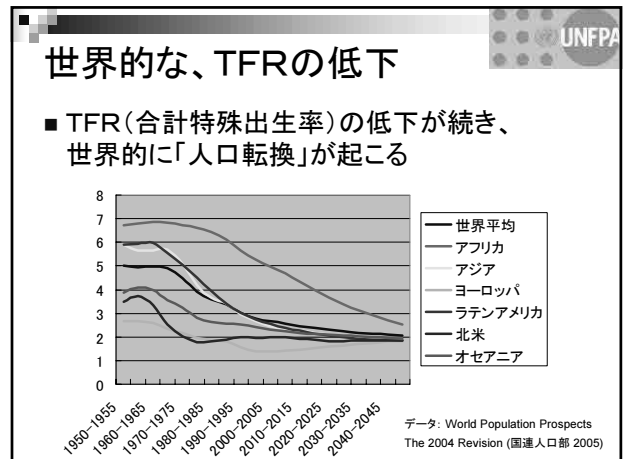
	2005年 人口(千人)	2050年 人口(千人)
0~14歳人口	353,750 (32.1%)	291,809 (18.3%)
15~64歳人口	691,453 (62.7%)	1,064,382 (66.8%)
65歳以上人口	58,168 (5.3%)	236,513 (14.8%)
合計	1,103,371 (100%)	1,592,704 (100%)

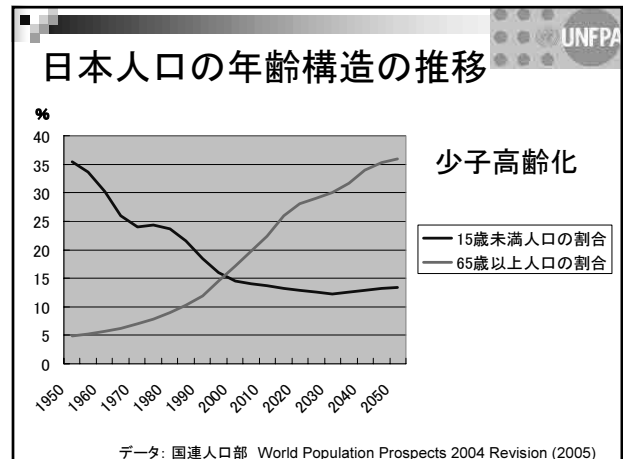
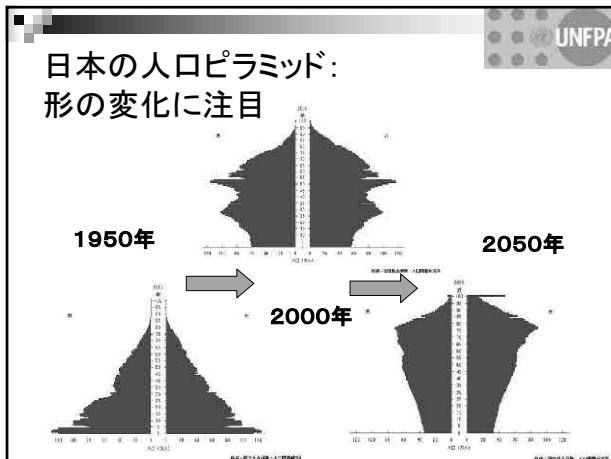
データ: 国連人口部 World Population Prospects 2004 Revision (2005)

ナイジェリアの人口推移

	2005年 人口(千人)	2050年 人口(千人)
0~14歳人口	58,224 (44.3%)	70,599 (27.4%)
15~64歳人口	69,324 (52.7%)	172,783 (66.9%)
65歳以上人口	3,982 (3.0%)	14,726 (5.7%)
合計	131,530 (100%)	258,108 (100%)

データ: 国連人口部 World Population Prospects 2004 Revision (2005)





少子・高齢化とは？

- 少子化 = 生まれてくる子供の数が少なくなること
- 高齢化 = 医療技術の進歩や衛生環境の改善により、人々が健康になって長生きできるようになること
- 出生率の低下により若年人口が減少したため(少子化)、高齢者の割合が高くなって高齢化が起こることもある
- ただし、この二つは必ずしも同時に起こるとは限らない(例えばスウェーデンは高齢化社会だが少子化は起きていない)

人口ボーナス、オーナス

- 人口ボーナス
- 人口オーナス

少子高齢化によって起こる問題の例

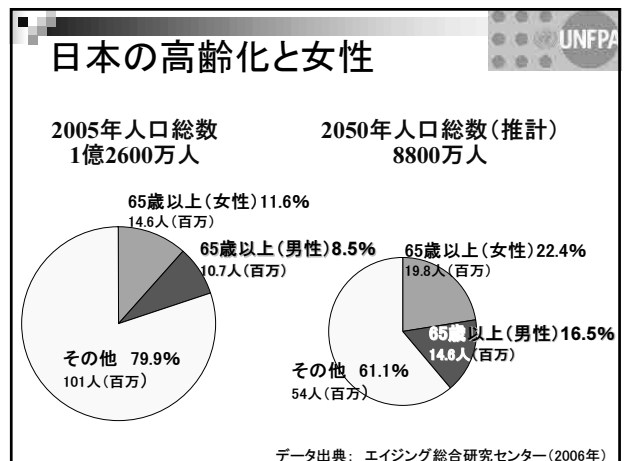
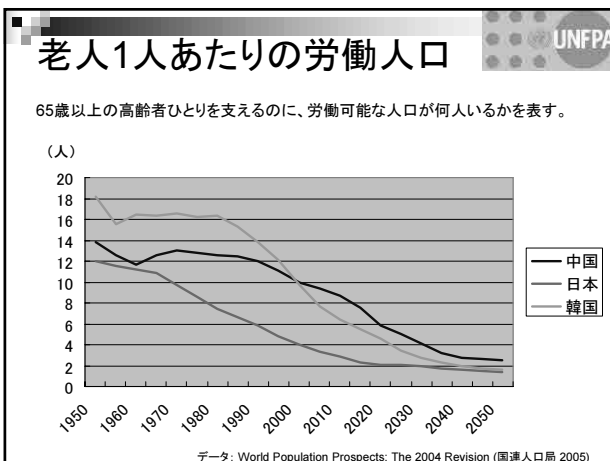
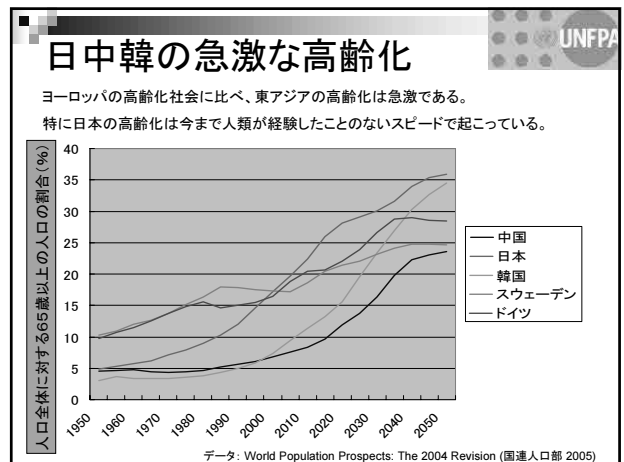
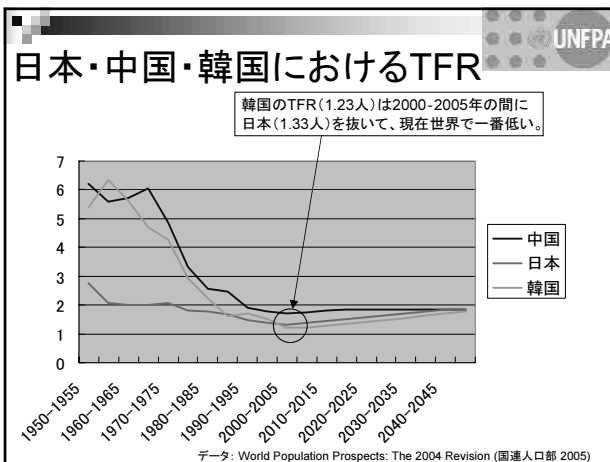
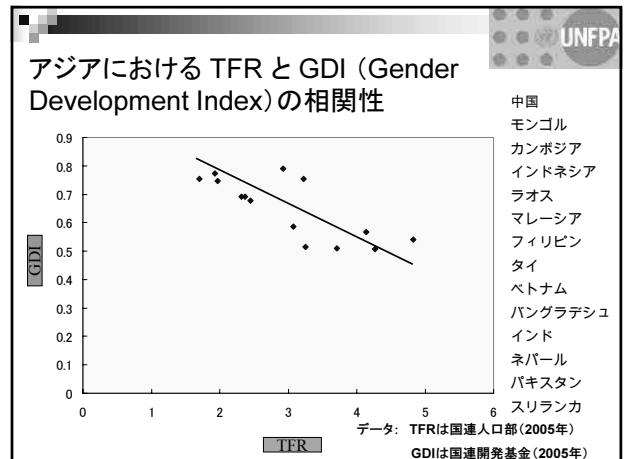
- 人口減少
 - 国内市場の縮小
 - 納税者の減少
- 労働人口の減少
 - 国全体での経済活動の縮小
- 社会保障負担の増加
 - 年金制度
 - 老人介護医療制度

人口問題の2つの視点

- 人の数(マクロ的視点)
- 人の生活の質(ミクロ的視点)


国連人口基金による高齢化対策の原則

- 高齢者の貧困削減
 - 人間らしい生活ができるための衣食住やヘルスケア
- 高齢者による社会参加の促進
 - 自己啓発や生涯教育、地域社会でのボランティア活動など
- 高齢者に適した医療サービスの提供
 - 予防医療、治療、リハビリ
 - 健康促進のための情報提供
 - 利用しやすい価格での医療サービス
 - 医療従事者への啓発
- 高齢者の人権
 - 高齢者に対する差別や暴力の撤廃
 - 経済・社会・文化的権利とジェンダー平等の推進



日本の高齢人口の女性化

- 日本の高齢者に占める女性の割合が増加
- 「女性は3度老いを生きる」といわれる
 - まず、配偶者の両親の介護
 - 次に、配偶者の介護
 - 最後に、自分の老い
- 女性のほうが男性より長生きするため、年金などの観点から貧しい年配女性が増える

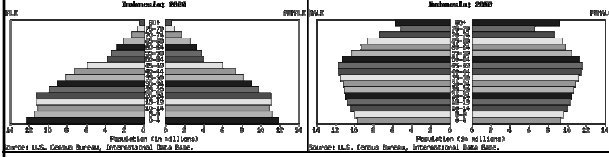


在宅介護ボランティアと高齢者(韓国)

高齢人口の女性化

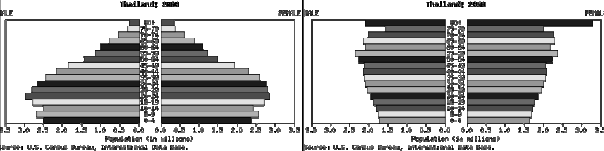
- 高齢人口の女性化は日本のみならず、世界的に起きている。以下はアジアの3国の例。

インドネシアの人口ピラミッド 2000年 → 2050年

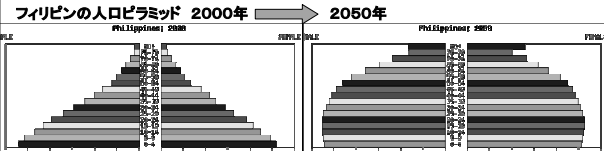


高齢人口の女性化

タイの人口ピラミッド 2000年 → 2050年



フィリピンの人口ピラミッド 2000年 → 2050年




市民社会による対応

- 日本(NPOの80%が高齢者介護関係。地域で見る&公共政策の補完?)
- 高齢社会NGO連携協議会(2007年3月に高齢社会に関する国際シンポジウム Reinventing Retirement in Asia を開催)
- 東アジアのみならず、世界各国の市民社会の連携も始まっている。2002年マドリッドで「高齢化に関する世界NGOフォーラム」を開催。(直後に行われた国連の「第2回高齢化問題世界会議」に意見を反映させるため。)


高齢者による社会参加の促進


- 国連の「マドリッド行動計画」(2002年)
 1. 高齢者の社会参加と自立を促進する
 2. 高齢者の健康と生活の質を向上させる
 3. 高齢者が自己実現できる環境を整える
- 退職時期
- 退職後の活動



最後に

- 国際連携: 日本社会の経験(急激な高齢化とその対応、政策的な試行錯誤、社会での議論)はこれから高齢化する社会にも役に立つ
- 少子化・高齢化の両方の対策においてジェンダー配慮を





Thank you !

国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70
UNハウス7階

Tel: 03-5467-4684 Fax: 03-5467-8556
tokyo.office@unfpa.or.jp
<http://www.unfpa.or.jp/>